

越谷も

YES, WE CAN.

『やればできる』

発行日: 2010年7月30日

発行者: チーム白川

No.4号

事務所: 越谷市大里 226-1
TEL/FAX 048-970-8005

『トライ&チャレンジ』 Try & Challenge

越谷の YES, WE CAN. Part III

昨年8月の政権交代以降、はじめての国政選挙が終り、主権者は10カ月間の民主党の中間評価を下しました。ひたすらマニフェストの実行を目指すことは変わらない事でしょうが、参議院の過半数ワレの現実をどのように乗り越えていくのでしょうか。

民意は民主党の迷走や逆走に対して厳しい審判を下しました。政権交代前の「ねじれ」をここに再現させました。政策テーマごとの受け入れを考えるか、新たな連携相手を模索するかの選択になりますが、現状の国内の課題は、財政再建、雇用対策、福祉政策、年金問題等どれをとっても躊躇や停滞が許される状態ではありません。

日本の政治(民主主義)はややもすると数の力に頼り過ぎて、強引な国会運営が露呈しています。参議院のねじれが、さらにその事につながらないように主権者は継続的なチェックの目が必要となりましょう。少なからず民主党の10ヶ月の中間評価は、満足行くものではないという民意と、みんなの党の躍進に象徴される一部の既成政党への物足りなさ、評価に値しなかった新党乱立が混在する結果に評価を与えました。自民党が勝ったというより民主党がエラーで負けたという印象が強い選挙戦であったという感じがします。

この結果を受けて来年統一地方選へと舞台が移っていきますが、4年間の活動評価を冷静に審判を下すことが求められます。地盤・看板・カバンがその判断基準では、地方議員を鍛え直すことにはなりません。「何かをやるために、何をあきらめる」かを市民に問える人、越谷のために働ける人材を少しでも多く選んで行こうではありませんか。(西川)

■第81回タウンミーティング-H22.5.22

➢ 商工業者の現状と地元活性化への課題

—越谷の商工業振興策について思うこと—

ゲスト: 新井 進 (株)新井製作所社長

物づくりの経営者が、景気の変化という大きな試練(プラザ合意後の売上げ半減・バブル経済とバブル崩壊)に対処してきた様子と、市の総合振興計画に関わってきた体験を聞き、今の社会の大きな変化に対応するためのヒントを得ました。



●新井製作所 新井社長のお話

◇ 第83回タウンミーティングは7月22日午後2時より行われました。(次号に掲載します)

■第82回タウンミーティング-H22.6.26

➢ 学生との対話

—就職・結婚・家族について—

ゲスト: 名倉 瞳 文京学院大学3年生

就職活動の現状や、人生設計をどのように考えているのかを聞き、世の中のために役に立ちたいという多くの若者の気持ちを
実現できる社会に変えていく
必要を感じました。



●名倉さんのプレゼン

◇ 次回第84回タウンミーティングは、8月22日(日)午後2時より、「歯科医師会の活動と地域医療」(仮)ゲスト: 日高健二氏(歯科医師)をお招きして行います。

■「第2回大袋地区市政報告会」に参加-7/13

第1回目続いて、第2回大袋地区の市政報告会が斗部市民会館で開催されました。



報告会では、①6月議会の議案審査結果②人事案件、学生議会報告③各議員報告、五市一町合併問題の報告がなされました。質疑応答が時間一杯まで続く等、市政報告会の関心は非常に高く、今回は若手の議員の説得力のある積極的な発言が印象的でした。

◇ 次回第3回報告会は、9月議会終了後に行われる予定です。

■「第7回桜井地区市政報告会」に参加-6/27

▶ テーマ:6月越谷定例市議会報告

討議する議会への改革の取り組みが一步步進展していることを感じました。議員の費用弁償の見直し、議決案件「蒲生小学校屋内運動場増改築工事」の現場調査の実施、市民請願案件への参考人(賛同議員・請願者)招致への試み、正副議長の選出方法改善等、是非もう一步前に進めるよう市民として注目していきたいと思えます。



◇ 次回第8回報告会は、9月議会終了後に行われる予定です。

「第2回政経セミナー」に参加-5/27

▶ テーマ:二元代表制にむけた市長からの提言—和光市の事業仕分けを通して見えて来た課題—

政経セミナー・特別講座No.2は、41歳の改革派市長、和光市の松本武洋市長の熱気あふれる講演を聴きました。議員の経験を踏まえた“二元代表制活性化にむけた市長からの提言”は、「事業仕分け」、「大規模事業検証」に市民参加



を保証したものであり、和光市で蓄積されたノウハウを越谷でもまねたいと思いました。

◇ 次回政経セミナー:9月下旬 特別講座 No.4
「二大政党政治と野党の役割」(仮) みんなの党衆議院議員 山内康一

タウンミーティングに参加して

白川議員の市民への問いかけ(朝立ち)を拝見し、タウンミーティングへ参加をさせていただきました。「議員にとって若年層ってどう見えてるんだろう?」という疑問を前から持っていたからでもあります。もちろん、意見が合わないことも予想していました。

ですが、意外にもここには議論する場がありました。説明や説得ではなく議論があった事は素晴らしいと思います。今思えば、鉄の扉を叩き、中へ入った事は、大変勇気のいる事でした。ですが、それだけの価値があり、自分が成長できた、そんな気がしています。一市民として、市政も他人事ではないと、強く認識致しました。

私はココで更に勉強させて頂こうと思っております。
☑ 岡田英夫(32才、会社員)

ゲストスピーカーとしてタウンミーティングに参加して、年代により就活や生き方への考え方が違うことに驚きました。

就職氷河期時代の転職を前提とした、自分の能力を向上させ更なる高みへ、という考え方は今の就活人にも少なからずあります。しかし就職も転職も困難なため、一生働ける仕事を探す方が多いように感じています。学生という地位に甘えて受け身になっている方も大勢いますが、お子さんのいる方はどうか見捨てないで下さい。親からの「頑張ってるね」は子どもの支えになります。日本には約2万の会社があるのですから、御縁のある仕事はきっとあります。

☑ 自分にも暗示をかけて。名倉 瞳(20才、文京学院大3年)

グラウンドゴルフ

【シリーズチーム紹介】北越谷1丁目グラウンドゴルフクラブ

創立7年目で、代表は飯塚利男氏。会員数は30名を超えようとしています。クラブは北越谷1丁目自治会が創設母体であり、自治会から活動助成金を受けています。例会は毎週水曜日開催(2丁目公園と御陵場側の第5公園)。



● 北越谷1丁目グラウンドゴルフクラブの皆さん

代表の飯塚氏はアイデアマンで、がんばろう越谷大会の運営でいくつかのアイデアが実行に移されており、又チームでポール設置準備にご尽力を頂いています。

モットーは「和気あいあい」「明るく、楽しく、元気よく」です。(三輪)

《「がんばろう越谷大会」に参加していただいているチームを順次紹介して参ります。》

編集後記

◇ 参院選の投票結果は、国会が単なる政党・会派の数合わせのままであれば、まったく機能しないことをはっきり示しました。越谷市議会でも超党派での取り組みが始まっているように、政策を国会の場で討議・熟議して、国民にとってよりよいものにするように、政治が転換していく必要性を痛感しています。(岡村)